

寄り添い型学習支援事業「中3まなびの場」(庄内)

1 活動の概要

(1) 活動のねらい

子どもの将来が生まれ育った環境によって閉ざされ、貧困が世代を超えて連鎖することを防ぐため、生活困窮者世帯の子どもたちに対して、学習を支援する。

具体的には、進学面に困難を抱える市内在住の生活困窮者家庭を中心にした中学3年生を対象に、安心して学習ができる場を提供する。そして、当面、高校卒業資格の取得などを目的に、子どもが持つ夢や希望を実現させる力を養い、あきらめず目標を持って学習し続けるために支援を行う。

(2) 活動内容

- 1) 個々の生徒が希望する学習のサポート
- 2) 学習の進め方や進路・学校生活などでの困り感についての相談(保護者・生徒)
- 3) 中学3年生同士・中学3年生と卒業生の親睦を兼ねた、ほっこりラウンジ(クッキング・SSTなど)
- 4) 必要に応じて学校や福祉事務所と連携

(3) 初回面談受付時間

・火曜日～金曜日(13時～17時) 土曜日(9時～15時)

(4) 対 象

市内在住の中学3年生で、中学校以外の学習の機会(塾、家庭教師など)を利用していない生徒

2 活動状況

(1) 生徒や保護者の思いを受け止める相談

- 1) 初回面談…受け入れに際して、市内在住の中学3年生の保護者や本人と面接相談を実施した。保護者や本人の意向を踏まえ、週登館回数など決めた。
- 2) 相 談 …本人、保護者の希望に応じて、臨床心理士が相談を行った。

(2) 学ぶ意欲を高め自学自習をめざす学習支援

個々の生徒の状況を分析し、スタッフや学習支援員(社会人・大学生)が個別対応で学校の宿題や課題、定期テストに向けての勉強を支援した。

(3) 中学校との連携

学習会に参加している生徒の中学校には本人、保護者の了承のもと必要に応じて活動状況を報告した。創造活動に参加している生徒については担当者を通じて情報を共有し支援を行った。

(4) 中3学習会「中3まなびの場」

・活動時間

火曜日～金曜日(16時30分～18時30分) 土曜日(13時30分～17時)

・振り返り

5月中旬に市内全中学校へ「中3まなびの場」のチラシ案内をした。5月中旬から申込みがあり、初回面談のもと受入れを開始し、学習会を実施した。

学習会は、各校試験対策や入試対策だけではなく、あきらめず目標をもって学習し続ける力を培い、進路を切りひらく時や中学校を卒業した後にも必要な「自学自習」できる力を養った。また、学習支援員が「勉強のやり方がわからない」「問題の解き方がわからない」などの問題を抱える中学3年生のサポートを行った。

1学期は9人の生徒が参加した。8月中旬は、夏休み学習会(13時30分～17時)を企画し、第1部学習会、第2部リフレッシュタイム(息抜きタイム)、第3部学習会の三部構成で実施した。特別プログラムの第2部リフレッシュタイムでは、卓球やカードゲーム(ウノ、トランプ)を盛り込んだ。このプログラムは、学習の気分転換や仲間づくりなど、居場所づくりにつながることを期待して計画した。在籍中学校や居住地の違う生徒たちにとって、お互いを知り合える絶好の機会になったのではないかと思われる。

2学期は、部活を引退し受験に専念する生徒も増え、参加者は12人になった。また、夏休み実施した特別プログラム「リフレッシュタイム(息抜きタイム)」は設定しなかったものの土曜日には適宜図書ラウンジの「たのしい集い」に参加するなど息抜きをする時間を取った。短時間でも気分転換をすることで学習にメリハリを持たせることもできるようになった。

また、かつて「中3まなびの場」や創造活動などに通っていた卒業生たちにも参加を呼びかけるべく、学習会以外での交流をねらい、クッキングを企画した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を大幅に縮小し、2回のみの実施ではあったが参加した生徒たちは普段とは雰囲気の異なる楽しい時間を過ごし、在籍中学校の違う生徒たち同士やスタッフとの距離を大きく縮めるよい機会となった。

前年度と同様、「塾や家庭教師などが利用できない中学生」(とりわけ生活保護家庭)は、市内全域に相当数存在していると考えられる。そうした中学生の一部ではあるが、「中3まなびの場」に集う中学3年生に寄り添い、支援をすることができた。また、各中学校との連携をはかることもでき、「寄り添い型学習支援事業」についての理解を福祉事務所や関係他部局などにおいても深めてもらうことができた。貧困が世代を超えて連鎖することを防ぐためにも、この「中3まなびの場」が、なお一層安心して学習に取り組める場(安心して居れる場)となることが求められる。

また、「中3まなびの場」を活用した中学3年生の中学校卒業後の支援を考えたとき、豊中市が立ち上げた「若者の社会的自立実現化」に向けた「若者支援相談窓口」(キャリアブリッジ受託)と連携していくことも大きな課題である。

(登録は12人)

	参加者	
	男	女
	3人	9人
合計	12人	